

報道関係各位

一般社団法人日本オーディオ協会

2012年度 第17回「音の匠」の顕彰

一般社団法人日本オーディオ協会（会長 校條 亮治）は、音楽、オーディオ、レコードなど「音」の文化について多くの人々に認識していただき、また音楽とオーディオ産業発展のために、（社）日本レコード協会、（社）日本音楽スタジオ協会などと協調して、1994年に12月6日を「音の日」と決めました。

この12月6日は発明王トーマス・エジソンが1877年、世界で初めて蓄音機「フォノグラフ」を発明した日であり、音を記録し再生するオーディオの誕生日ということになります。

「音の日」の記念行事の一つとして、日本オーディオ協会は1996年より音を通じて文化や生活に貢献した方々を「音の匠」として顕彰し、広く一般の方々に素晴らしい音の世界を認識していただく活動をつづけております。

第17回目にあたる本年度は、福祉工学を活用することで健常者だけでなく聴覚障害のある人々にも的確に警報を伝えて迅速かつ着実な避難行動につなげる緊急地震速報を開発された伊福部達氏を「音の匠」に、また歴史的な蓄音器を多数収集し、それらを一般展示するとともにロウ管やSPレコード音源を当時のまま再生することで音楽オーディオの奥深さを伝える活動をされている八日市屋典之氏を「音の匠特別功労賞」として顕彰いたします。

2012年度「音の匠」

伊福部 達氏（いふくべとおる）
東京大学 高齢社会総合研究機構・特任研究員

2012年度「音の匠特別功労賞」
八日市屋 典之氏（ようかいちやのりゆき）
金沢蓄音器館館長

以上

（添付資料）

1. 顕彰者のプロフィール
2. 過去の「音の匠」受賞者一覧

データ資料は報道関係者様専用ダウンロードサイトよりご利用いただけます。

アドレス <http://www.jas-audio.or.jp/press/>

